



**2010.1.11**

鈴鹿市文化会館けやきホール

14:00start



主催: (財) 鈴鹿市文化振興事業団/レディオキューブFM三重  
 共催: 三重県/(財) 三重県文化振興事業団  
 後援: 三重県吹奏楽連盟/三重県中学校吹奏楽連盟/三重県高等学校吹奏楽連盟

[DISCOGRAPHY]  
**ZIPANG CD**  
 好評発売中



- ①ZIPANG ②ジパング・ミーツ・ポ  
ウシュコヴァー・イン・ベルリン ③  
アメリカ! アメリカ! アメリカ ④  
ユニオン・ジャック・フィリップ・ジ  
ョーンズに捧ぐ  
⑤シャンソン ⑥黄金の国・ジパング  
⑦ジパング・ゴールデン・ベスト ⑧  
オーケストラ!

## ● Program

グロリア……………G.F.ヘンデル作曲／吉川武典編  
カンツォーナ……………B.マリーニ作曲  
ソナタ……………G.ガブリエリ作曲  
カトル・ア・カトル……………J.ノレ作曲

### ■休憩■

[ジパング シネマ パラダイス] 吉川武典編

《ナレーション:吉田 孝》

『オリンピック・ファンファーレとテーマ』……………J.ウィリアムズ作曲

『プライベート・ライアン』より“戦没者への讃歌”……………J.ウィリアムズ作曲

『ニュー・シネマ・パラダイス』……………E. モリコーネ作曲

組曲「心色－HISAISHI－」より……………久石 譲作曲

『ハウルの動く城』より “人生のメリーゴーランド”

『千と千尋の神隠し』より “あの日の川”

『風の谷のナウシカ』より “風の谷のナウシカ”

※出演者の意向により、曲目が変更になる場合があります。ご了承ください。

## ● Profile



### トロンボーン・クアルテット ジパング

1998年、4つの在京オーケストラ、N響、読響、日フィル、新日フィルのトロンボーン奏者によって結成、翌99年9月すみだトリフォニーホールで大観衆が見守る中、華々しくデビュー。以降すみだトリフォニー大ホールでの定期公演は昨年12月の公演で11回を数え、会場を埋め尽くす聴衆からは絶大な支持を得ている。

レパートリーは、オリジナルの四重奏の他、オーケストラ、ピアノ、オペラ等のアレンジ、委嘱作品等幅広く、それらの録音、楽譜の出版も行っている。

現在までにリリースしたCDは8枚。売り上げは15,000枚を超える。

“少しでも多くの聴衆に、心から楽しんでもらうこと”  
それがジパングの願いである。

## Member Profile

1965年、香川県高松市生まれ。12歳よりトロンボーンを始める。  
東京芸術大学在学中、新日本フィルハーモニー交響楽団入団。  
1988年、日本管打楽器コンクール第一位、及びコンクール大賞を受賞。東京芸術大学卒業。  
1991年、NHK交響楽団に移籍。  
1996より1年間、文化庁海外派遣芸術家在外研修員としてドイツ、ベルリン市へ留学。伊藤清、ヴォルフラム・アルント氏に師事。  
現在、NHK交響楽団トロンボーン奏者。東邦音楽大学特任准教授、聖徳学園大学非常勤講師。  
トウキョウ プラス シンフォニー、N-crafts メンバー

吉川 武典 Takenori Yoshikawa



1967年生まれ。9歳よりトロンボーンを始める。  
1985年、国立音楽大学器楽科入学。  
1988年、研究生として、日本フィルハーモニー交響楽団に入団。  
1989年、同校卒業後、正団員となる。谷田部賞受賞、読売新人演奏会に出演。  
1994年より1年間、文化庁派遣芸術家在外研修員として、ベルリン芸術大学に留学。  
トロンボーンを原尚二、佐藤菊夫、W, ハーゲンの各氏に師事。  
現在、日本フィルハーモニー交響楽団副首席トロンボーン奏者。東京音楽大学講師。  
トウキョウ プラス シンフォニー メンバー

岸良開城 Haruki Kishira



栗田 晃 Akira Kuwata



門脇賀智志 Kachishi Kadowaki

1970年、北海道生まれ。  
武蔵野音楽大学在学中に新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。武蔵野音楽大学卒業。  
第8回日本管打楽器コンクールトロンボーン部門第2位。  
第1回大阪トロンボーンコンペティションソロ部門第2位。  
これまでにトロンボーンを山下春生、真弓基教、神谷敏の各氏に師事。  
カスタムブラスクインテット、アンサンブル・タープの各メンバー。  
現在、読売日本交響楽団首席トロンボーン奏者。武蔵野音楽大学、桐朋学園大学非常勤講師。  
トウキョウ プラス シンフォニー メンバー

## Trombone Quartet ZIPANG



1958年、山形生まれ。  
1971年、トロンボーンを始める。  
1978年、東京芸術大学音楽学部器楽科入学。  
1982年、東京芸術大学音楽学部器楽科卒業。同大学院音楽研究科修士課程入学。  
1984年2月、新日本フィルハーモニー交響楽団に入団。4月、東京芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了。  
1989年、文化庁芸術家海外派遣員としてドイツ、ミュンヘン市立リヒャルト=シュトラウス音楽院に入学。  
1990年、帰国。新日本フィルハーモニー交響楽団に復帰。  
関根五郎、永濱幸雄、秋山鴻市、エルンスト・ギールの各氏に師事。  
現在、新日本フィルハーモニー交響楽団バス・トロンボーン奏者。尚美学園大学講師。  
トウキョウ プラス シンフォニー メンバー  
三重県での指導歴は長く、ほぼ30年。新日本フィル演奏クリニック・トロンボーン講師をはじめ、三重県立白子高等学校吹奏楽部、三重ジュニア管弦楽団、白子ウインドシンフォニカ、三重フィルハーモニー交響楽団などの指導を行ない、三重県は第二の故郷となっている。

## ●Note

### 《第1部》

#### ◎G.F.ヘンデル「グロリア」

金管楽器の世界ではヘンデルの作品と言われることが多いのですが、実はフランスの伝承曲「Angels We Have Heard on High」というキリスト誕生を祝う曲が原曲で、「荒野の果てに」という邦題の賛美歌としても知られています。クリスマスでは必ず歌われるナンバーなのでメロディを聴けばお分かりになるはず。今回の吉川の編曲では厳かでノスタルジックなバロック風の世界が見事に展開されています。

#### ◎B.マリーニ「カンツォーナ」

ピアジョ・マリーニはイタリアの作曲家であり、1615年から1620年まではヴェネツィアにある聖マルコ大聖堂のヴァイオリニストとしてモンテヴェルディのもとで演奏したと記録に残っています。後にドイツでも活躍し、声楽曲等を数多く残したマリーニ。この四声の為のカンツォーナは厳かな中にも華やかさを含んだ名曲です。

#### ◎G.ガブリエリ「ソナタ」

ジョヴァンニ・ガブリエリは1554年に生まれ、1612年の没したイタリアの作曲家兼オルガニストです。当時の音楽界に最も影響力のあった人物であり、ヴェネツィア楽派の頂点に立って、ルネサンス音楽からバロック音楽への過渡期を代表する、極めて重要な作曲家です。この四声のソナタは、和声の美しさのみならず立体的なカノンによる演奏効果が素晴らしく、当時の響き豊かな教会に身を置いているような錯覚に陥るほど…。演奏される機会は少ないのですが、私達ジパングのお気に入りの作品です。

#### ◎J.ノレ「カトル・ア・カトル」

ジェローム・ノレは作曲家とトロンボーン奏者という二つの顔を持つ、現代フランスで活躍するアーティストです。生み出す作品はジャズやポップスのテイストから前衛的なものまで多岐に渡っています。タイトルは「四本の為の四重奏」と訳すのが適切でしょう。「フォックス・トロット」「バラード ジャズ・ワルツ」「ブルース」「ヴィフ（急速に!）」というタイトルのついた四曲は、難曲でありながらもとても楽しいものばかりです。ストレータだけでなく、ブランジャー、ハーマン、バケットなど、様々なミュートを駆使した音色の変化も楽しんでいただければと思います。

### 《第2部》

#### 『ジパング シネマ パラダイス』（吉川武典編）

#### ◎J.ウィリアムズ「オリンピック・ファンファーレとテーマ」

##### 「プライベート・ライアン」より“戦没者への讃歌”

ジョン・ウィリアムズは、言わずと知れたアメリカを代表する作曲家です。「ジョーズ」「スター・ウォーズ」シリーズでその名前が知れ渡り、このロサンゼルス・オリンピックの開会式の音楽では、センセーショナルな感動と驚きを演出、世界から賞賛を得ました。

また「プライベート・ライアン」のようにテーマの深い作品でも手腕を発揮。心に染み入る音楽性が、その和声とメロディに余すことなくちりばめられています。

#### ◎E.モリコーネ「ニュー・シネマ・パラダイス」

エンリオ・モリコーネはイタリアの作曲家。映画音楽で世界中のファンから愛されています。ローマで生まれ、聖チェチーリア音楽院で作曲技法を学んだ後、テレビ・ラジオ等の音楽からキャリアをスタートさせました。

1960年代は映画監督セルジオ・レオーネとのコンビでいわゆる「マカロニ・ウェスタン」作品で存在感を増していきました。以降イタリア以外からも評価が高まり、1987年には「アンタッチャブル」でグラミー賞を受賞、1989年には「ニュー・シネマ・パラダイス」で世界的にも高い知名度を得たのです。今回はモリコーネのロマン溢れる珠玉の音楽を、ジパングのエスプレッシーヴォを添えてお贈りします。

#### ◎久石 譲 組曲「心色-HISAISHI-」

##### 「ハウルの動く城」より“人生のメリーゴーランド”

##### 「千と千尋の神隠し」より“あの日の川”

##### 「風の谷のナウシカ」より“風の谷のナウシカ”

この組曲は6枚目のアルバム「黄金の国」収録しました。そのブックレットに書いた文章をここで紹介させていただきたいと思います。

「やはり久石さんは天才だ……」ジパングが演奏する「ハウルの動く城」を聴きながら、ある作曲家がつぶやいた言葉です。「日本」をテーマにしたニューアルバムを作ろうと思いついた時、ジパングらしいアレンジができる”日本の名曲”を探し始めました。オーケストラやブラス、ピアノや合唱曲、ポップスから民謡童謡まで幅広いジャンルのの中から”これが日本人による圧倒的な名作だ”というものを演奏したかったのです。そしてたどり着いたのが、この『心色-HISAISHI-』、久石譲さんの音楽でした。

久石さん自身の快諾も得てこれら“ジブリ”のアニメ音楽を編曲したのは、決して“有名だから、人気があるから”という理由ではありません。アニメの情景にシンクロさせた音楽が、映像以上に心に内在する風景、そこに見える色、温度、匂い、感触等を私達の脳裏に沸き起こさせるものであり、心の奥底へ染み入るセンチメンタリズムに充ちた素晴らしい芸術作品だと思ったからです。

人のたどり着いたことのない森、雨上がりの水面に、生き返ったような緑の葉から落ちた滴が作り出す波紋、そのみずみずしさと、強く憧れるような清楚な空間。あるいは、自分の意に反した、見たこともないようなおどろおどろしい空の色がもたらす恐ろしいほどの不安。また、子供の頃しか心に持ち合わせていない様々な気持ち。目に見えないものへの興味や不安、恐怖心。新しいものを知り自分が変わっていくことへの沸き上がるような快感。命や物質、自然や社会、時の流れと成長における真実に気づく瞬間。孤独と裏切りの哀しさを経験すると同時に、家族、仲間と生きていけることへのかけがいのない喜びも知る。それら全てに驚き、悲しみ、歓喜し、そして身につけ生きていく、成長してゆく。人生に訪れるこんな時々の、様々な”心色”が音楽に内在し、私達が普段忘れていた感傷を沸き起こさせてくれる…。

そんな音楽だからです。

2010.1.11 トロンボーン・クァルテット ジパング